

震 災 日 誌

—震災後の大学の対応—

*震災関連の事実を新聞報道から抄出
★交通事情の推移

月 日	対 応 事 項
1月17日	<p>午前5時46分頃、淡路島・阪神間を中心に兵庫県南部に大地震が発生。大学構内の電気・ガス・水道のすべてが地震の直後に機能を停止。午前8時すぎ、電気・ガスは復旧するも、水道は終日断水のまま。外部からの電話による問い合わせに、出勤できた少数の教職員が対応。電話回線の混乱により事態の把握困難をきわめる。</p> <p>*地震はM7.2、震度は神戸・淡路島洲本6、京都5、大阪4、「兵庫県南部地震」と命名。</p> <p>★JR・阪神・阪急・神戸・山陽電鉄などの鉄道、高速道路が不通となる。</p>
1月18日	<p>地震対策緊急連絡会議を開き、学長との連絡不能のため、学生部長、事務局長を中心に教職員10名が現状の把握と応急の対策を検討。</p> <ul style="list-style-type: none">・建物の被害状況（施設課長の目視による報告）：学生会館3階記念講堂の天井4分の1が落下、体育館窓ガラス多数破損、1号館の柱・壁等に亀裂多数、2・3号館は被害比較的軽微。交通機関が一部をのぞきすべて寸断され、復旧の見通し立たず、大学へのアクセスがきわめて困難であること、教職員・学生の被災状況が不明であることをふまえて今後の日程を検討し、緊急の措置を決定。①1月28日までの授業はすべて休講、その他の行事も中止または延期することとし、29日以後の日程は、期末試験もふくめて、1月25日に臨時教授会を開いて決定する。この件につき全学生・教職員に本日付けのはがきにて通知し、報道機関に広報を依頼（朝日・神戸新聞、1/20に掲載）。②各ゼミ単位で学生の安否を確認する作業を担当教員に依頼する。③専攻科の論文締切り日を2月27日に変更。④1月21日実施予定の特別入試を延期する。1期入試は予定どおり2月5日実施をめざし、編入学・帰国子女試験の日程とあわせ、なお細目を検討する。 <p>・学生部長と事務局長が法人本部に大学の現況を報告し、中・高・本部の被災状況を視察（その建物・施設等の被害甚大）。</p> <p>*死者2500人をこえると発表。</p> <p>★鉄道不通区間：JR＝尼崎～西明石、新幹線＝新大阪～姫路、阪急＝西宮北口～三宮、阪神＝甲子園～元町、神戸高速・神戸電鉄全線、ポートライナー／六甲ライナー全線、市営地下鉄＝新神戸～板宿（西神中央～板宿開通）。</p>
1月19日	<p>震災対策本部の設置を決定。山崎学長が登学可能となるまで、日常業務を統括する責任者として宮崎学生部長と大比賀事務局長があたることとする。</p> <ul style="list-style-type: none">・教職員・学生の安否確認に全力をあげ、被災者名簿の作成を急ぐ。・猪木聡子講師（非常勤）の訃報が入る（芦屋の自宅で被災）。・1期入試の予定どおり実施にともなう諸問題（被災者に対する特別措置、交通・大学へのアクセスについての配慮等）をさらに検討する。・建物・施設等の損壊箇所の点検と応急処置についての報告。

- ・日本私立大学協会事務局に大学の現状を報告。
 - ・小林学園理事長、学内を視察。
 - * 死者3000人をこえると発表。
 - * * 村山首相が被災地を視察、政府内に「緊急対策本部」を設置。
 - ★神戸電鉄＝鈴蘭台～粟生、鈴蘭台～三田の運行再開、JR＝尼崎～甲子園口開通。
- 1月20日
- ・国文学科3年次鈴木弘美さんの訃報が入る（西宮の自宅で被災）。
 - ・安否確認作業の続行と経過の報告。
 - ・1期入試の予定どおり実施にそなえ、一部受験生の試験場の変更、交通手段の確保、安全等につきさらに検討する必要を再確認（入試委員長を中心に入試課が作業を進める）。
 - ・西宮以東の教職員17名が、大学への出勤不能のため大阪梅田にて集会を開き、情報の交換、現状の分析をもとに善後策を協議し、大学のとるべき対応について提言をまとめる。
 - ・文部省高等教育局私学部助成課に大学の被害状況を報告。
 - * 死者・不明者5000人をこえると発表。避難所生活者は推定31万人。
 - * * 神戸市中央区と淡路島北部を〈震度7〉と判定を修正（気象庁）。淡路島北淡町の近隣数キロにわたって1m～0.3mの段差を観測。
 - ★神戸市街地でバスの運行を再開。
- 1月21日
- ・対策本部会議を開き、全学的対応をさらに強化。
 - ・前日の大阪での集会の提言もふまえ、25日の教授会への提案事項を検討（1期・2期入試、その他の入試の実施要領、被災者に対する特別措置、期末試験、卒論口頭試問等の取り扱い、成績評価の方法など）。
 - * スイスからの災害救助隊（19日）につづき、フランスからも特別救助隊が到着。
 - * * 淡路島北淡町で震度4の余震。
 - ★阪急＝新伊丹～塚口開通。
- 1月22日～24日
- ・教職員が手分けして被災地・避難所を巡回し、学生の安否確認の作業を精力的に進める。入試当日（2月5日）の交通手段として、バス2台のチャーターを確保。
 - ・25日に全教職員集会を開いて、現状の把握をふまえ、震災対策本部の組織を仕事別に整備し、全学的な取組みを一層強化することにする。
 - * 22日、震災後初めての降雨により、避難勧告相つぐ。
 - * 23日、被災地の小・中・高の約半数の180校で、安否確認のため生徒が登校。
 - * * 震災名を「阪神・淡路大震災」に統一。死者5000人をこえると発表。
 - ★JR＝須磨～西明石開通。阪急＝西宮北口～今津、西宮北口～門戸厄神開通。JR／阪神／阪急＝三宮～西宮で代替バス運行を開始。
 - * 24日、政府がこの震災を「激甚災害」に指定。神戸市の被害総額を10兆円と推計。
 - * * 死者5063人中、207人の外国人がふくまれていることが判明。
 - * * * イギリスの特別レスキュー隊が神戸に到着。
- 1月25日
- ・全教職員集会を開き、経過報告にもとづき、教学活動の再開にむけて一致協力することを確認。
 - ・教授会にて緊急の問題（授業、定期試験、成績評価、学年末の行事・入試日程など）を審議し決定。ただちに全学生と関係者に通知する文書を作成（資料参照）。
 - ・文部省高等教育局大学課に、教務・入試関係の教授会決定事項を報告。
 - ・次期学長候補者選挙を延期（→2/10）

- * 余震これまでに1128回、うち有感地震は109回と発表（気象庁）。
 - ★ポートライナー／六甲ライナーの代替バス運行開始。JR＝甲子園口～芦屋開通。
- 1月26日
- 全学生と関係者に、学長名で教授会決定を文書で発送。（資料参照）
 - 被災学生に対する学費等の特別措置の実施を理事長に要請。
 - 26日現在の大学の被害状況の集約。
- * 神戸市が「震災復興本部」を設置。
 - ★阪神＝甲子園～青木開通。
- 1月27日
- 全学生の安否・被災状況の調査を完了。死者1名（前記鈴木弘美さん）、意識不明の重傷者1名（英文学科3年次松村麻里砂さん）をのぞき、全員の無事を確認（資料参照）。
 - ※松村麻里砂さんは、その後奇跡的に回復し学業生活に復帰した。
 - 入試、卒業式の予定どおりの実施、新学期にそなえての緊急問題への取り組み、および被災学生への救援措置の検討をすすめる。
 - 学生の下宿確保・斡旋と交通対策についてプロジェクトチームを編成。
 - 30周年記念事業のうち、募金活動の開始時期を、震災のため延期することを決定。
- * 震災による大学生の死者、111人と発表（文部省）。
 - ★中国自動車道全面復旧。
- 1月28日
～29日
- 校舎の損傷箇所の復旧工事開始、建物の亀裂部分の調査。
 - 下宿の新たな確保のために、チラシ・ビラ等を周辺地域に配布する準備。（資料参照）
- ★28日、国道43号線開通。三宮～大阪の代替バス運行開始。山陽電鉄＝明石～霞ヶ丘開通。
- 1月30日
- 入学試験時に余震が発生した場合の対応マニュアルの検討。被災受験生・新入学生の検定料、入学金、学費等の免除・延納案を作成（2月3日の教授会に提案）。
 - 救護班内に〈メンタルケア〉委員会の設置を決定。また被災者に対する学生・教職員のボランティア活動の組織化に着手。
 - 下宿提供を近隣の保護者・卒業生に依頼する文書の作成と発送。
 - 交通事情に配慮して、4月以降〈スクールバス〉のチャーター運行を検討。
- ★JR＝神戸～須磨開通、山陽電鉄＝霞ヶ丘～滝の茶屋開通。
- 1月31日
- 在学生と卒業生への被災見舞い、受験生への1期入試の実施案内を新聞に広告。（朝日／毎日／読売／神戸／産経、資料参照）
 - 1期入試の実施要領の細目の検討（2月3日の教授会に提案）。
 - 学生の被災状況をさらに細かく把握し、しかるべき対応をはかるために、指導教員と学生間の連絡網を密にすること。
 - ボランティア活動の内容・実行の形態をより明確にすること。
 - 30日付けで局長から、職員に日常業務に従事すべき旨の通知あり。日常業務以外の震災関係の業務は、教員ができるかぎり分担して行うことにする。
- * 被災した児童・生徒のうち15,161人が、県内および他府県に転校しているとの発表（30日現在、文部省）。
 - * * 死者・不明者5109人と発表（警察庁）。

- 2月1日
- ・理事長より、受験生・新入学生・在學生に対する被災特別措置を検討中であり、近日中にその概要を発表するとの通知あり。
 - ・1期入試の実施については、既決事項のほかに、試験の当日相談受け係を会場におき、大学の被災状況・下宿・交通路等につき説明することを決定。
- ★阪神三宮～高速神戸開通。
- 2月2日
- ・理事長、本部長出席のもとに学内理事・評議員の緊急合同会議を開催。被災者に対する経済特別支援その他の緊急対策を協議。
- *仮設住宅への入居開始。
- 2月3日
- ・前日の合同会議をふまえ、被災受験生・新入学生・在學生に対する特別経済支援措置について、理事長より正式の文書。
 - ・教授会を開催。当面の緊急課題（既記）について審議・決定する。
 - ・各学科会議を開き、新年度の開講時期・開講科目の再確認・在學生への配慮等について協議。1期入試終了後は、この件と卒業式の実行に対策の主眼をおくこととする。
 - ・復旧対策は多方面にわたるので、これまでの対策組織をさらに機能的に再編成し、10日の教授会で周知徹底をはかることとする。
- *震災の死者、未検視をふくめ5243人と発表（兵庫県警）。
- * *被災者に対する国立大学の特別入試の実施基準を発表（国大協）。
- 2月4日
～6日
- 4日・特別選抜入試を実施。1期入試の会場の設営。
- 5日・1期入試（本学・大阪・岡山・広島・姫路各試験場）および編入学・教育専攻科試験を実施、無事に完了。
- 6日・採点・集計等の業務（なお被災者に対する経済的支援措置については、受験生には5日、在學生には6日にそれぞれ通知）。
- ・本日より付属図書館が開館される。
- ★5日、阪急＝今津線が全線開通。
- *長田区民合同葬儀が行われる。
- * *神戸市で罹災証明の発行を開始。
- ★6日、神戸高速＝花隈～新開地開通。
- 2月7日
- 対策本部会議における確認事項
- ・3月23日の卒業式開催のための記念講堂の修復作業日程。
 - ・在學生に現状を説明し新学期にそなえさせるため、学年別に登学日を設定（3年次＝2月23日、2年次＝2月27日、1年次＝2月28日、4年次＝3月10日）。年次別の日程とあわせて、利用可能な学内の施設を通知することを決定。
 - ・被災後なお避難所で生活している学生に見舞い一時金。
 - ・学生避難者名簿と家屋の被災状況の資料。
 - ・〈地震対策本部会議〉は本日をもって終了し、今後は問題別に対策班を構成して集中的に対応することを決定。復旧対策の班別の仕事の概要と、組織・人員の配置は、教授会に学長が提案し決定することとし、原案を作成。
- * 〈震度7〉の地域指定を大幅に拡大し、1km×20kmの带状と判定。
- * *死者5276人＋不明6人と発表（警察庁）。
- ★神戸電鉄＝鈴蘭台～長田開通。

- 2月8日
～9日
- ・〈阪神大震災救護班〉相談室・相談係をおき、被災にともなう心理的ケアに対応。
 - ・新年度入学生数の確保について関係者の合同会議。
 - * 8日、兵庫県立全高校で授業を再開。
 - * * 南米コロンビアでM6.4の地震。
 - ★ J R = 芦屋～住吉開通、住吉～神戸をのぞき J R は復旧。
 - * 9日、死者5296人+不明4人と発表（警察庁）。
 - * * 大学・民間・自治体の相互協力で被災状況の〈凶面化〉が進む。
- 2月10日
- ・1期入試（特別選抜、編入を含む）、教育専攻科入試の合否判定教授会。
 - ・被災学生に対する特別措置に関する細目を決定（資料参照）。
 - ・復旧対策本部の仕事と班組織および人員配置を決定（資料参照）。
 - ・次期学長候補者選挙を実施。
 - * 被災者用の仮設住宅の必要数が4万5千戸と発表（兵庫県）。
- 2月11日
- ・1期入試等の合格者発表。
 - ・合格者に入学金・学費等の被災者特別措置の文書を発送。
 - * 兵庫県が「フェニックス計画」素案を発表。
 - * * 12日、死者5317人+不明4人と発表（警察庁）。
 - ★ 阪神 = 御影～青木開通。
- 2月13日
- 〈総合計画班会議〉で行事日程の一部変更を決定。
 - ・3月23日の卒業式の開始時刻を、11時→13時、4月8日の入学式の開始時刻を、10時→11時に変更。
 - ・新年度オリエンテーション・授業開始日等については〈教学対策班〉でさらに審議。
 - ・平成6年度補正予算と7年度予算の原案を作成し、22日の教授会に提案。
 - ・被災地の大学間の学長レベルでの連絡を強化し、協力体制を作ること。
 - ・〈情報収集班会議〉で情報収集の重点目標を決め、作業を開始（行政関係の対応、他大学の今年度の授業・成績評価、新年度の授業計画・被災者に対する措置、交通事情等）。
 - ・1～4年次生に登学日の通知を発送（資料参照）。
 - * 死者5329人+不明2人と発表（警察庁）。
 - ★ 阪急 = 御影～王子公園開通。
- 2月14日
- * 三宮周辺の大災害の原因と目される幅4m、長さ数百mの〈断層ずれ〉が確認される。
 - * * 大蔵省、震災対策費9千億円を補正予算に計上。
- 2月15日
- ・〈教学対策班会議〉で、交通網復旧の遅れに配慮した新年度の時間割を検討。在学生の登学日の行事のすすめ方、指示内容を検討。
 - ・〈入試対策班会議〉で、2期入試の実施にともなう諸問題と、入学者のために必要な措置を検討。また平成8年度入試の概要を確認。
 - * 避難所に、なお21万人の被災者。
- 2月16日
- ・大学選出の理事が、理事長、本部長、中・高校長と会談し、学園全体の被災状況をもとに、緊急の課題を協議。理事会の開催が不可能のため、応急工事その他の緊急対策は〈学園内常任理事会〉が主担することを決定。
 - * 「阪神・淡路復興委員会」の初会合で緊急のテーマを決定。

★市営地下鉄＝全線開通（「三宮」「上沢」「新長田」は駅未修復のため通過）。

- 2月17日
- ・〈阪神間私立大学・短期大学連絡会議〉が発足（学長出席）。
〈班長会議〉で各班の対応と現状認識を確認。
 - ・〈交通対策〉＝2～3月の復旧の推移を把握し、在学生・受験生に正確な情報を提供すること。在学生すべての通学路・所用時間をアンケートにより調査し、4月以降〈スクールバス〉の導入もふくめて必要な措置を検討。
 - ・〈被災学生対策〉＝被災学生の実態調査、特別措置の適用基準、申請手続き、個別相談の受付、面接日程等を審議。
 - ・1～4年次生の登学日その他の緊急連絡事項を新聞に広告（朝日／毎日／神戸、資料参照）。
- * 県内各地で震災1カ月の追悼行事が行われる。
* * 死者5391人＋不明2人（兵庫県警）。
- 2月18日
- * 淡路島洲本で震度4の余震。
 - * * 死者5403人＋不明2人（兵庫県警）。
- 2月19日
- * 死者5413人＋不明2人（兵庫県警）。
- 2月20日
- ・〈総合計画班会議〉＝平成6年度補正予算および7年度予算の編成は、学園全体の被害が甚大であるため、学園本部が中・高・大の全体的復旧の見通しに立っておこなうことを了承。
 - ・学生の登学日に配布する4月1日以降の日程を検討。
- * 死者5420人＋不明2人（兵庫県警）。
★JR＝灘～神戸開通、阪神＝岩屋～三宮開通。
- 2月21日
- ・〈教学対策班会議〉＝今年度の成績評価の問題点を集約。新年度の行事日程のうち、新入生のオリエンテーション・親和行事の日程と内容を具体的に検討。
- ★山陽電鉄＝東須磨～須磨寺開通。
- 2月22日
- ・理事長、本部長が全教職員に対し、学園の被災状況・応急の対応措置・復旧についての学園の見通し・基本方針等を提示。
 - ・教授会を開催（各対策班の報告をもとに、緊急の課題を審議・決定する）。
- * 死者5424人＋不明3人（兵庫県警）。
- 2月23日
- ・3年次生登学日（3学科全体の出席率78%）。
 - ・全在学生の実態を把握するために〈阪神・淡路大震災アンケート〉を実施。
- * 死者5426人＋不明3人（兵庫県警）。
- 2月24日
- ・〈班長会議〉を開催、以下の諸点を確認。
〈教学〉＝新年度は4月17日に授業開始、10時始業の特別時間割とする。
親和行事は学外での実施をとりやめ学内で行う。
〈入試〉＝平成8年度入試の実施要項を決定。
〈交通〉＝JR神戸駅からの〈スクールバス〉運行の可能性を具体的に検討。
〈下宿〉＝物件がほとんどなく、新入生への斡旋に苦慮。
〈ボランティア〉＝長田区の片山児童館で〈神戸親和女子大学青空保育園キャラバン

	隊〉が活動中との報告。
	〈被災学生〉 = 1期および推薦入学予定者について学費免除の選考。
2月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・就職状況の悪化に対処するため、対策班の設置が提案される。 * 死者5431人+不明3人（兵庫県警）。
2月26日	<ul style="list-style-type: none"> * 西宮市、芦屋市が合同慰霊祭を行う。 * * 死者5438人+不明3人（兵庫県警）。
2月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次生登学日（3学科全体の出席率73%）。 ・父母の会からの義援金（100万円）を被災学生救援に充当することを決定。 ・〈スクールバス〉運行について業者との予備折衝にはいる。
2月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次生登学日（3学科全体の出席率68%）。
3月1日	<ul style="list-style-type: none"> * さんちか営業を再開。 ★阪神 = 西灘～岩屋開通。阪急 = 甲陽園～夙川開通。
3月3日	<ul style="list-style-type: none"> * 神戸市の2月の消費者物価が、震災で2%下落との公式発表。
3月4日	<ul style="list-style-type: none"> * 明石市で合同慰霊祭が行われる。
3月5日	<ul style="list-style-type: none"> * 神戸市、宝塚市、尼崎市で合同慰霊祭が行われる。
3月6日 ～8日	<ul style="list-style-type: none"> ・被災在学生に対する特別措置の予備申請の受付。
3月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会（新年度の時間割は、4/17～5/13は10時開始、5/15～前期末は9時開始の90分授業とし、後期は平常の時間割にすることを決定）。
3月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・2期入試を実施。 ・文部省による被災状況の現地視察あり（被害を6千6百万円と査定）。
3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次生登学日（卒業式の日程を公表、遠方への帰省・避難者多く3学科全体の出席率60%）。 * 神戸まつりの中止が決まる。 ★JR = 長田駅が仮設駅舎で営業を再開。
3月11日	<ul style="list-style-type: none"> * 震災による大学・短大の就職内定の取り消し、155人と発表（文部省）。 ★阪急 = 伊丹駅が仮設駅舎で営業を再開。
3月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・教育専攻科入試。
3月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・2期・教育専攻科入試の合否判定教授会。 * 死者5480人+不明2人（兵庫県警）。 ★阪急 = 王子公園～三宮開通。
3月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・2期・教育専攻科合格者発表。 ・被災在学生の特別措置申請の面接（16日まで）。 ・〈交通対策班〉 = 〈スクールバス〉運行に関する細目を検討。

3月15日	・〈総合計画班〉＝〈スクールバス〉の業者委託による運行を決定。
3月16日	・理事会で藤井昭治氏を次期学長に任命することを決定。
3月17日	* 神戸大学、神戸商船大学で合同慰霊祭が行われる。
3月18日	・2期入試合格者の被災特別措置の面接（20日まで）。
3月20日	・教授会で緊急の対応事項を総括し、なお継続すべき問題点を確認。新年度の時間割を決定。
3月23日	・卒業式を挙行（謝恩会は中止）。
3月27日	・スクールバス運行の概要を決定し、学生に通知。 ・〈総合計画班会議〉で、復旧対策本部の当面の任務が終わったので、本部組織を簡素化し新年度にそなえることとする。
備 考	<p>★ 4月以降の交通機関の復旧は以下のとおり。</p> <p>4 / 1 JR＝住吉～灘の復旧により全線開通。</p> <p>4 / 9 山陽新幹線＝新大阪～姫路の復旧により全線開通。</p> <p>6 / 1 神戸高速＝三宮～花隈開通。</p> <p>6 / 12 阪急＝西宮北口～夙川復旧により全線開通。</p> <p>6 / 18 山陽電鉄＝高速長田～板宿復旧により全線開通。</p> <p>6 / 22 神戸電鉄＝長田～新開地復旧により全線開通。</p> <p>6 / 26 阪神＝御影～西灘復旧により全線開通。</p> <p>神戸高速鉄道＝「大開駅」の修復（平成8年1月17日より全線復旧）。</p>